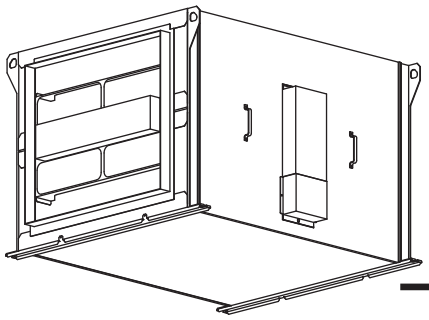
Panasonic



取扱説明書　工事説明付き

消音形キャビネットファン〈大風量タイプ〉

品番　FY-28SCM3-H　FY-28SCZ3-H
FY-28SCY3-H

もくじ

安全上のご注意 ・・・・・・ 2〜4

各部の名前と寸法 ・・・・ 5〜6
（品番表示位置）

保守・点検・・・・・・・・・・ 7〜9

保証とアフターサービス ・・10

工事説明 ・・・・・・・・・11〜14

1. 取り付けの前に ・・・・・・・・・・ 11
2. 取り付け方法・・・・・・・・・・・・ 12
3. 電気結線 ・・・・・・・・・・・・・・ 13
4. 推奨別売品について ・・・・・・ 14

仕様・・・・・・・・・・・・・・・・・15

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- **ご使用前に「安全上のご注意」（2〜4ページ）を必ずお読みください。**
- この取扱説明書は大切に保管してください。
- この取扱説明書は最終需要家様まで確実にお渡しください。

安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産への損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠ 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠ 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です。）

⃠	してはいけない内容です。
❗	実行しなければならない内容です。
⚠	気をつけていただく内容です。

⚠ 警告

点検・お手入れの際は、電源（ブレーカー）を切る

感電やけがをすることがあります。

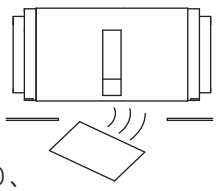
本体は、十分強度のあるところにしっかり取り付け、強度不足の場合には補強する

落下により、けがをするおそれがあります。

本体は指定の方法で確実に取り付ける

落下により、けがをするおそれがあります。

部品は確実に取り付ける



落下により、
けがをするおそれがあります。

可燃性ガスが漏れたときは、窓を開けて換気する

ファンを運転すると、電気接点の火花により爆発火災の原因になることがあります。

メタルラス、ワイヤラス、または金属板張りの木造造営物に金属製ダクトを貫通する場合、メタルラス、ワイヤラス、金属板と接触しないように取り付ける

漏電した場合、火災の原因となります。

使用を終了した製品は放置せず、撤去する

万一の場合、落下によりけがをするおそれがあります。

定められた人以外は、操作、点検をしない

禁止

予期せぬ事故の原因になります。

空気の吹出口や吸込口に指や棒などを入れない

禁止

内部でファンが高速で回転しており、けがの原因になります。

本体の吸込口・吹出口を開放して使用しない

禁止

運転時、人や物が吸い込まれけがの原因になります。また乱流などにより、予期せぬ事故の原因になります。

⚠ 警告

ガス漏れのときはファンのスイッチを入れたり切ったりしない

禁止

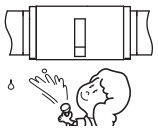
スイッチ火花によりガス爆発の原因となります。

電源スイッチをぬれ手で切／入しない

ぬれ手禁止

感電のおそれがあります。

本体各部に直接水やお湯、かび取り剤などをかけない



禁止

ショートや感電のおそれがあります。

搬入、搬出に際しては、重心および重量に注意しておこなう

吊り上げ、持ち上げ、保持が不完全な場合は落下し、けがの原因になります。

爆発性の粉じんおよびガスの発生する場所には取り付けない

禁止

爆発・火災の原因になります。

ガス給沸器や給湯器等の燃焼器具用排気ダクトには取り付けない

禁止

火災の原因になります。

⚠ 注意

異常発生時（音、振動、臭い）は直ちに運転を停止し、修理を依頼する

予期せぬ事故の原因になります。

施工時、点検時には、手袋やヘルメットなどの保護具を着用する

けがややけどなどの原因になります。

電気、配管、設備工事は、必ず専門業者に依頼する

工事に不備があると予期せぬ事故の原因になります。

電気工事は、電気設備技術基準および内線規程に従い施工する

配線などに不備があると漏電や火災の原因になります。

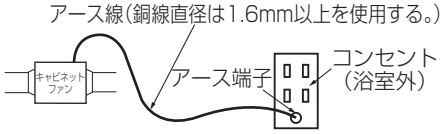
D種接地工事をおこなう

故障や漏電のときに感電するおそれがあります。（異電圧仕様の機種の設置工事は、各電源電圧に応じた接地工事をおこなってください。）

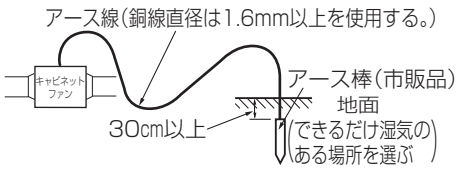
アース線接続

■アース工事は、次のいずれかの方法でおこなってください。
他の方法でおこなうと接地が十分でない場合があります。

●コンセントのアース端子にアース線を接続する場合



●アース棒を使用する場合



■ガス管や水道管、電話や避雷針のアース線には絶対に接続しないでください。（法令で禁止されています。）
■設置場所の変更やご転居の際には、必ず再度アースの取り付けをおこなってください。

本体をねじったり、ダクトなど過度の荷重が本体にかからないよう施工する

落下して、けがの原因になります。

天吊りの場合、吊りボルトは規定の本数、ボルト径を使用する

足らない場合、落下しけがの原因になります。

定格以外の電圧を印加しない

禁止

火災、感電事故の原因になります。

絶対に分解したり修理・改造しない

分解禁止

発火したり、異常動作してけがをすることがあります。

●修理は販売店へご相談ください。

定められた環境以外では使用しない（15ページ参照）

禁止

羽根の破損やモーターの焼損などにより、予期せぬ事故の原因になります。

吹出口、吸込口付近に障害物を置かない

禁止

飛ばされたり、吸い込まれたりして、けがの原因になります。

安全上のご注意 必ずお守りください

⚠ 注意

吹出口に目をむけない（特に起動時）

禁止

ごみなどが飛んできて目に入ることがあります。

定格範囲内で運転する

羽根の破損やモーターの焼損などにより、予期せぬ事故の原因になります。

ダクト内の風によるファンの回転に注意する

電源が切れていても、回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。

点検時などに、本体からはずした点検口のふたや部品を落とさないよう注意する

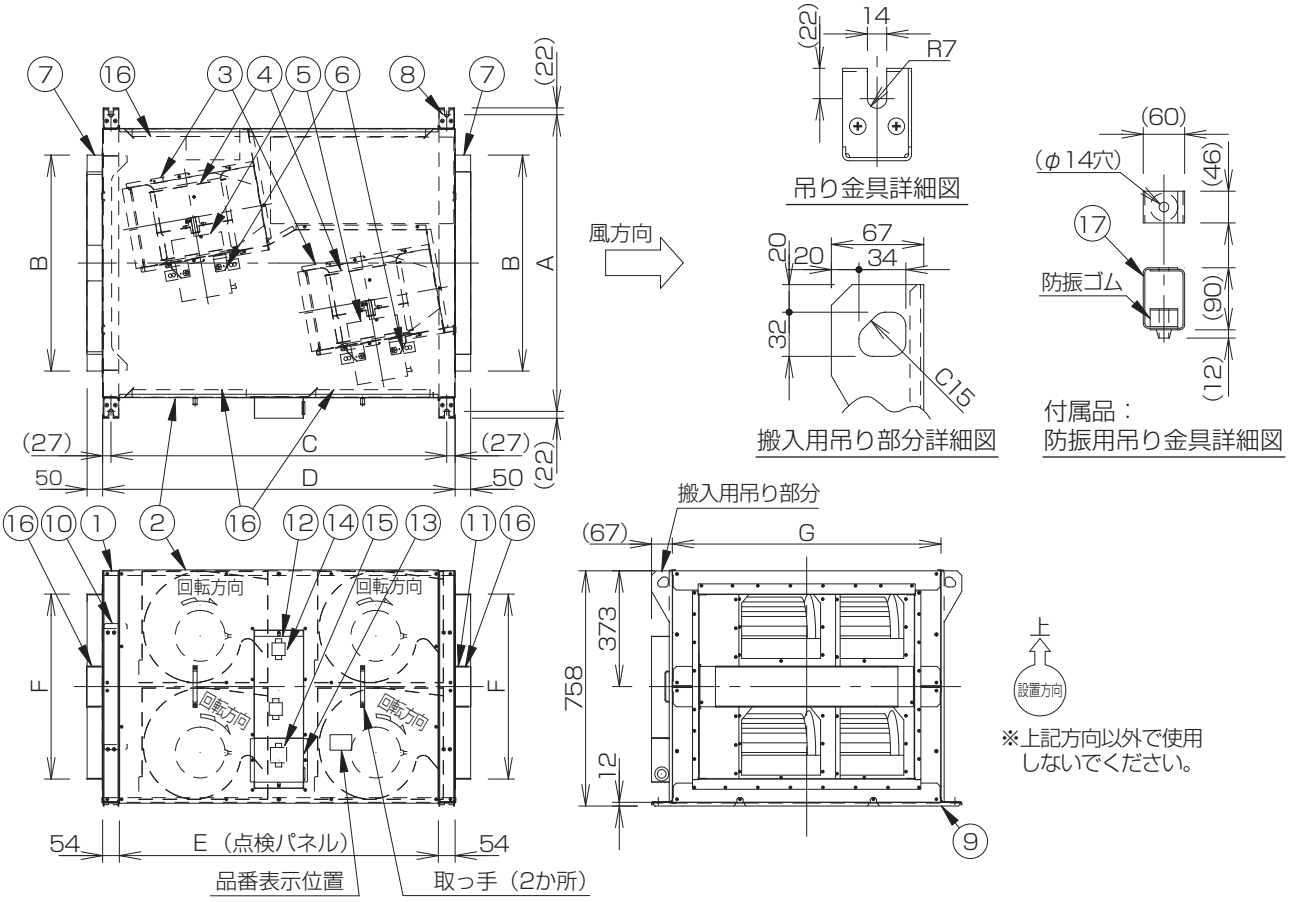
落下して、けがの原因になることがあります。

お手入れの際は、ホコリの落下と足場に注意する

けがのおそれがあります。

各部の名前と寸法（品番表示位置）

●4モーター機種（FY-28SCM3-H、FY-28SCZ3-H）



単位（mm）

品　番	A	B	C	D	E	F	G	接続ダクト寸法
FY-28SCM3-H	956	696	1082	1136	1028	596	866	600×700
FY-28SCZ3-H	956	796	1082	1136	1028	646	866	650×800

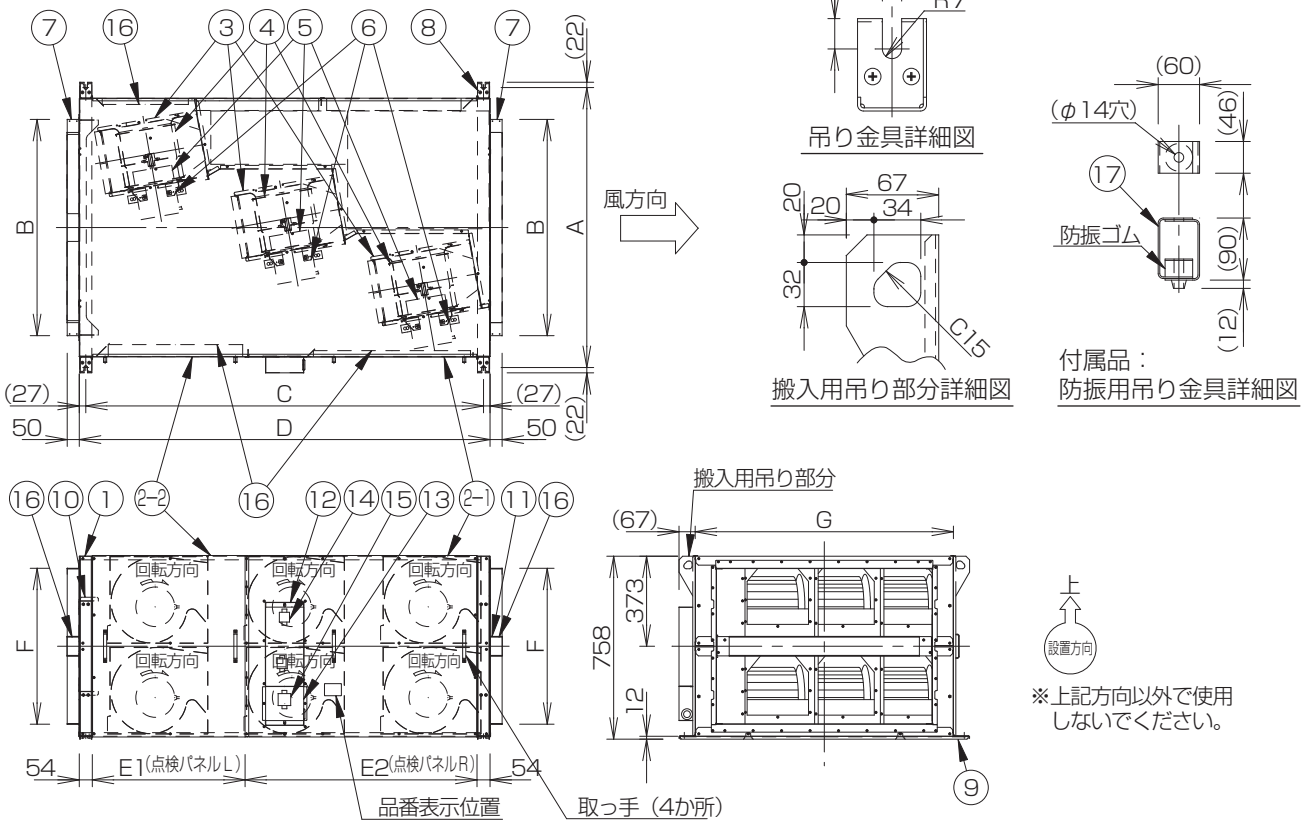
番号	部　品　名	数量	分　類	材　質
1	パネル類	1セット	鉄	亜鉛メッキ鋼板
2	点検パネル	1	鉄	亜鉛メッキ鋼板
3	ファンケーシング	4	鉄	亜鉛メッキ鋼板
4	羽根車	4	鉄＋アルミニウム	亜鉛メッキ鋼板、主板アルミ
5	モーター	4	複合部品	——
6	モーターサポート	4	鉄	亜鉛メッキ鋼板
7	アダプター	2	鉄	亜鉛メッキ鋼板
8	吊り金具	4	鉄	亜鉛メッキ鋼板
9	吊り架台	2	鉄	亜鉛メッキ鋼板
10	インレットウイング	1	鉄	亜鉛メッキ鋼板
11	アウトレットエアガイド	1	鉄	亜鉛メッキ鋼板
12	端子カバー UP	1	鉄	亜鉛メッキ鋼板
13	端子カバー LO	1	鉄	亜鉛メッキ鋼板
14	端子台ユニット UP	1	複合部品	——
15	端子台ユニット LO	1	複合部品	——
16	吸音材	1セット	複合部品	グラスウール＋ガラスクロス
17	防振用吊り金具（付属品）	4	複合部品	鋼板＋ゴム

お願い

本品を廃棄の際は、上記の材質を目安にしてリサイクル推進に努めてください。

各部の名前と寸法（品番表示位置）

●6モーター機種（FY-28SCY3-H）



単位（mm）

品　番	A	B	C	D	E1	E2	F	G	接続ダクト寸法
FY-28SCY3-H	1160	896	1648	1702	633	961	646	1070	650×900

番号	部　品　名	数量	分　類	材　質
1	パネル類	1セット	鉄	亜鉛メッキ鋼板
2−1	点検パネル R	1	鉄	亜鉛メッキ鋼板
2−2	点検パネル L	1	鉄	亜鉛メッキ鋼板
3	ファンケーシング	6	鉄	亜鉛メッキ鋼板
4	羽根車	6	鉄＋アルミニウム	亜鉛メッキ鋼板、主板アルミ
5	モーター	6	複合部品	——
6	モーターサポート	6	鉄	亜鉛メッキ鋼板
7	アダプター	2	鉄	亜鉛メッキ鋼板
8	吊り金具	4	鉄	亜鉛メッキ鋼板
9	吊り架台	2	鉄	亜鉛メッキ鋼板
10	インレットウイング	1	鉄	亜鉛メッキ鋼板
11	アウトレットエアガイド	1	鉄	亜鉛メッキ鋼板
12	端子カバー UP	1	鉄	亜鉛メッキ鋼板
13	端子カバー LO	1	鉄	亜鉛メッキ鋼板
14	端子台ユニット UP	1	複合部品	——
15	端子台ユニット LO	1	複合部品	——
16	吸音材	1セット	複合部品	グラスウール＋ガラスクロス
17	防振用吊り金具（付属品）	4	複合部品	鋼板＋ゴム

お願い

本品を廃棄の際は、上記の材質を目安にしてリサイクル推進に努めてください。

保守・点検

長期間安全にご使用いただく為に下記の事を守ってください。

1. 定期点検はお買い上げの販売店または工事店へご相談し依頼してください。
   相談先がなくお困りの場合は「パナソニック修理ご相談窓口」（10ページ）へご連絡ください。
2. モーターの推定寿命時間は約2万時間ですが、使用状況によりモーターの寿命は異なりますので異常音などが確認されましたら、モーター交換を行なってください。

ご注意

定期点検を行なうことによって、運転の効率が維持され無駄なエネルギー消費がなくなるのみならず機器の寿命を長くすることができます。
（点検周期は使用条件がきびしい場合、下表より短くしてください）

■ 日常点検（お客様へ）

初期状態と比べ著しい騒音・振動の発生がないか、運転状態の確認をしてください。（聴覚・触感など）

■ 定期点検（サービス会社様へ）

下表を参考に点検を行なってください。

記号の説明
○：定期点検
◆：定期交換部品の取替え

部品名	経過年数 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	点検内容	判定基準（目安）	保全内容	備考
1 送風機全体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	機器更新	·騒音、振動の確認（聴覚・触感など）	·著しい騒音、振動の発生なきこと	·基礎ボルト、吊りボルトの増し締め ·補修困難な場合は製品交換	
																·取り付けねじ類のゆるみ確認（工具による）	·ゆるみなきこと	·工具による増し締め	
2 ファンケーシング モーターサポート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		·外観の確認（目視点検）	·著しい発錆、腐食、付着物、変形のなきこと	·付着物の清掃除去 ·著しい発錆、腐食、変形、傷などのある場合は部品交換	
																·騒音、振動の確認（聴覚・触感など）	·異常音、異常振動のなきこと ·羽根車との接触なきこと	·各取り付けねじ部の増し締め ·接触による損傷がある場合は部品交換	
3 羽根車	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		·外観の確認（目視点検）	·著しい発錆、腐食、付着物、変形のなきこと	·付着物の清掃除去 ·著しい発錆、腐食、変形、傷などのある場合は部品交換	
																·回転状態の確認（目視、手回し）	·異常音のなきこと ·ファンケーシングとの接触なきこと	·接触による損傷がある場合は部品交換	
																·羽根車止めねじのゆるみ確認（工具による）	·ゆるみなきこと	·工具による増し締め ·羽根車止めねじの締め付け方法は8、9ページを参照ください	
4 モーター	○	○	○	○	○	◆	○	○	○	○	○	◆	○	○		·外観の確認（目視点検）	·著しい発錆、腐食、付着物、変形のなきこと	·付着物の清掃除去 ·塗装の剥がれ部はタッチアップ補修 ·著しい発錆、腐食、変形、傷などのある場合は部品交換	定期交換部品
																·騒音、振動の確認（聴覚・触感など）	·異常音、異常振動のなきこと	·異常時は部品交換	
5 パネル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		·外観の確認（目視点検）	·著しい発錆、腐食、付着物、変形のなきこと	·付着物の清掃除去 ·著しい発錆、腐食、変形、傷などのある場合は部品交換	
6 吸音材	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		·外観の確認（目視点検）	·ガラスクロスの剥がれ、破れ、付着物のなきこと	·異常時は部品交換	
																·外れ、剥がれの確認（目視点検）	·外れ、剥がれなきこと	·再度取り付け固定 ·異常時は部品交換	
7 端子台	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		·端子、ねじ類のゆるみ確認（工具による）	·ゆるみなきこと	·工具による増し締め	

備考　上表は一般的な目安を示し、使用状況、設置条件等により変化することがあります。
運転時間の目安は、1日10時間、年間300日、3000時間としています。

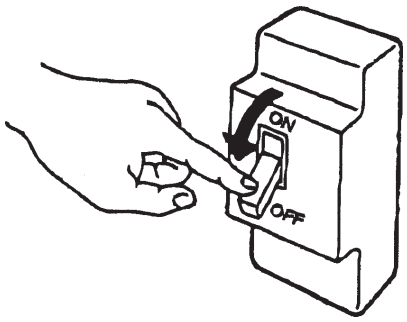
保守・点検（続き）

■ 分解要領

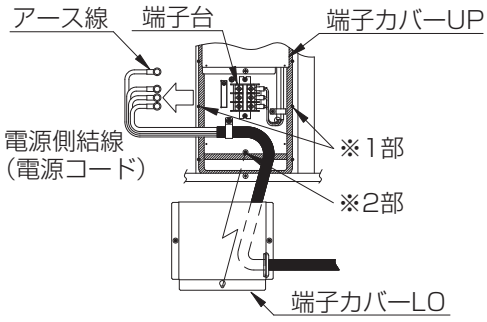
モーター交換など、分解が必要な場合には、次の手順に従って分解をしてください。
（安全上、必ず、手袋をご使用ください。）

●4モーター機種（FY-28SCM3-H、FY-28SCZ3-H）の場合

1.まず、電源（ブレーカー）を切る



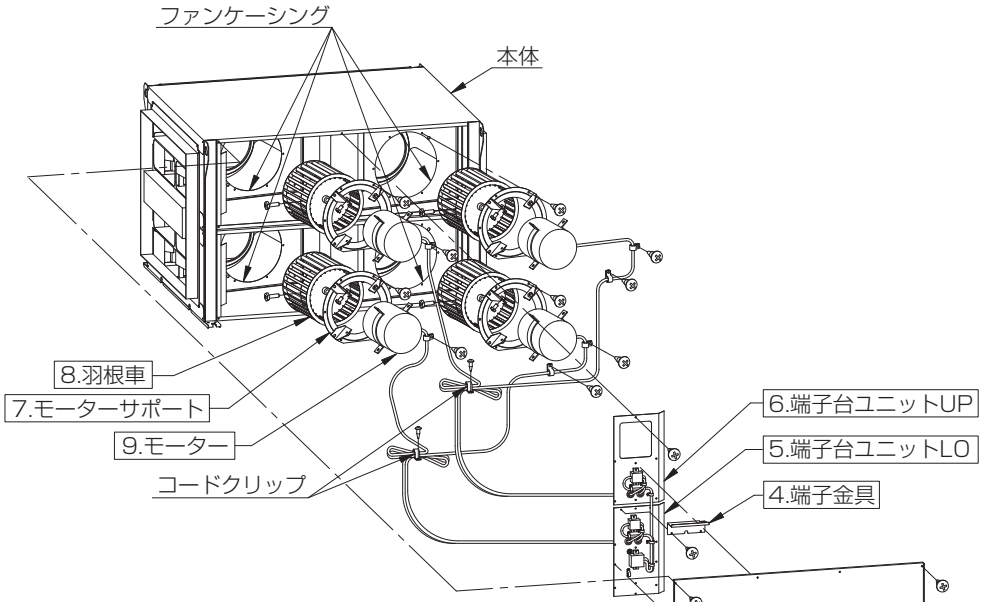
2.電源側結線をはずす

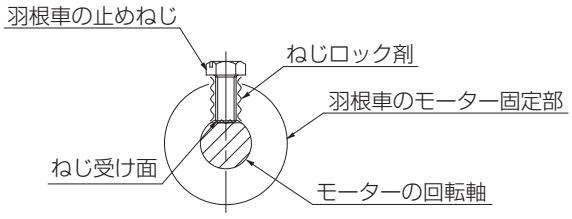


① 端子カバーLOのねじ（※1部）2か所をはずす。
② 端子カバーLOのねじ（※2部）1か所をゆるめ、端子カバーLOをはずす。
③ 端子台から電源側結線（電源コード）をはずす。

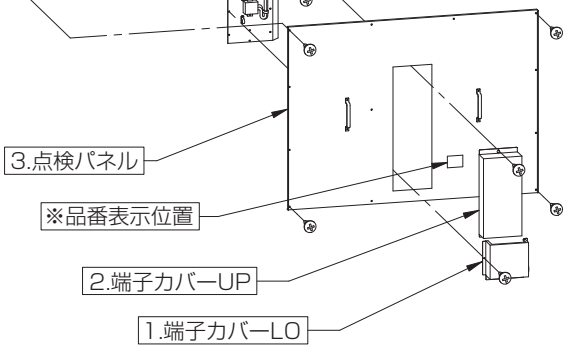
3.各部品に分解する

（順番にそって!!）





羽根車の止めねじ部詳細

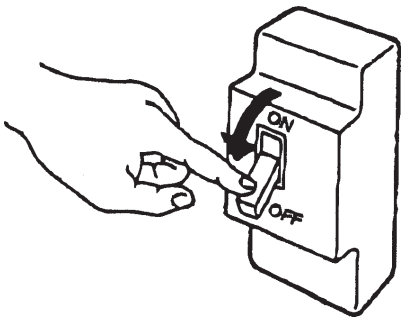


ご注意

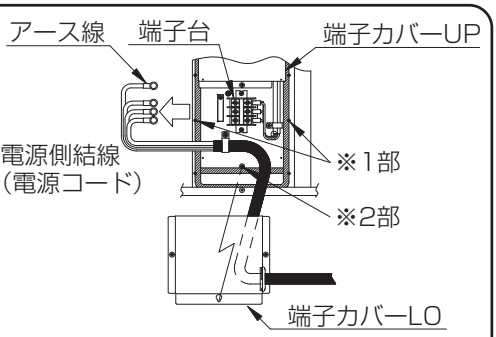
●羽根車の止めねじを締め付ける時は、ねじ穴および止めねじに付着しているねじロック剤を除去したあと、止めねじのねじ部にねじロック剤（客先手配）を塗布し、止めねじとモーター回転軸のねじ受け面とが垂直であることをご確認の上、締め付けトルク8N·m（±0.5N·m）で締め付けてください。（締め付け不足·過多は故障の原因となります。）
●組み立ての際は、モーターのリード線をコードクリップ等にて確実に固定し、羽根車に巻き込まれないようにしてください。
●モーターは特に重量に注意して、落下させないよう作業を行なってください。

●6モーター機種（FY-28SCY3-H）の場合

1.まず、電源（ブレーカー）を切る



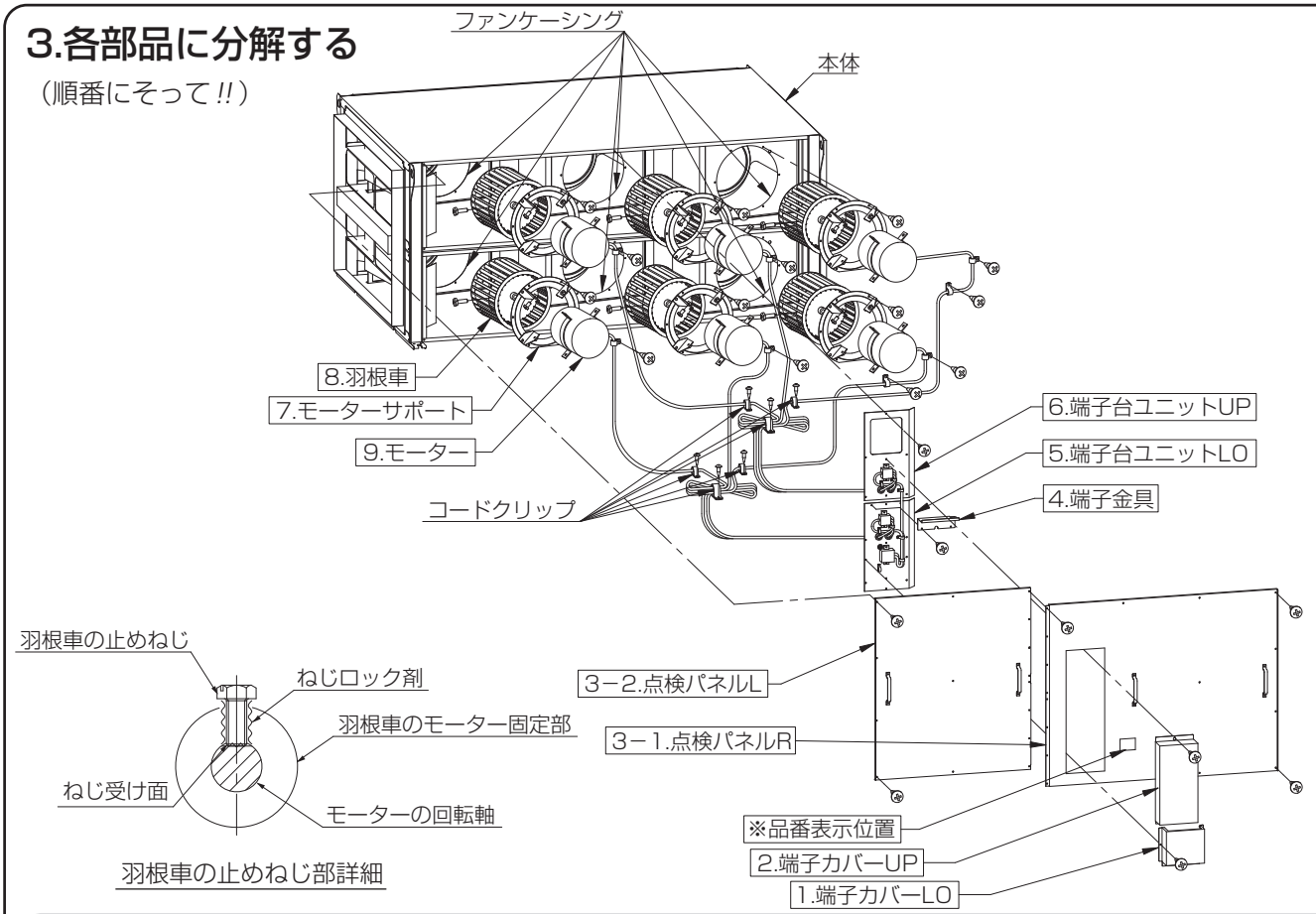
2.電源側結線をはずす



① 端子カバーLOのねじ（※1部）2か所をはずす。
② 端子カバーLOのねじ（※2部）1か所をゆるめ、端子カバーLOをはずす。
③ 端子台から電源側結線（電源コード）をはずす。

3.各部品に分解する

（順番にそって!!）



羽根車の止めねじ部詳細

ご注意

●羽根車の止めねじを締め付ける時は、ねじ穴および止めねじに付着しているねじロック剤を除去したあと、止めねじのねじ部にねじロック剤（客先手配）を塗布し、止めねじとモーター回転軸のねじ受け面とが垂直であることをご確認の上、締め付けトルク8N·m（±0.5N·m）で締め付けてください。（締め付け不足·過多は故障の原因となります。）
●組み立ての際は、モーターのリード線をコードクリップ等にて確実に固定し、羽根車に巻き込まれないようにしてください。
●モーターは特に重量に注意して、落下させないよう作業を行なってください。

保証とアフターサービス よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは…
■まず、お買い上げの販売店または工事店へご相談ください。

■ 保証

消音形キャビネットファン〈大風量タイプ〉の保証期間は納入の日から1年といたします。保証期間中正常な使用にもかかわらず、当社の設計、加工等の不備により故障または異常が発生した場合は、故障または異常の部位を無償で修理致します。ただし客先での改造、仕様変更、保管中の破損、故障または異常に起因する各種損害などについてはその責を負いません。
なお、消音形キャビネットファン〈大風量タイプ〉は一般換気用・ビル空調用に設計しております。使用状況および用途が異なる場合は保証できない場合がありますのでご注意ください。

下記の事項に係る修理は無償修理保証の対象から除きます。
1.換気用途以外で使用した場合の不具合
2.お客様が適切な使用、維持管理を行なわなかったことに起因する不具合
3.当社が定める工事説明書等に基づかない施工、専門業者以外による移動・分解などに起因する不具合
4.建築躯体の変形など住宅部品本体以外の不具合に起因する当該住宅部品の不具合、塗装の色あせ等の経年変化または使用に伴う磨耗等により生じる外観上の不具合
5.塩害地域、温泉地などの地域における腐食性の空気環境に起因する不具合
6.ねずみ、昆虫等の動物の行為に起因する不具合
7.火災・爆発等事故、落雷・地震・噴火・洪水・津波等天変地異または戦争・暴動等破壊行為による不具合
8.消耗部品の消耗に起因する不具合
9.指定規格以外の電気を使用したことに起因する不具合

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】
パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

■ 補修用性能部品の保有期間 6年

当社はこの消音形キャビネットファン〈大風量タイプ〉の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後6年間保有しております。

修理を依頼されるときは

故障と思われましたら下表に従って点検し、なお異常のあるときは、電源を切り、必ず販売店に点検をご相談ください。
そのとき、下記項目を確認の上ご連絡ください。
1.品番・製造番号(銘板に記載)
2.風量・静圧・運転電流値
3.使用状態(設置状況、使用期間、1日あたりの運転時間など)
4.異常状態(いつごろからか、またどんなときに発生するのか)
5.取扱気体(一般換気用か、清浄空気か、また用途は)

●診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。
※修理料金は次の内容で構成されています。
技術料 診断・修理・調整・点検などの費用
部品代 部品および補助材料代
出張料 技術者を派遣する費用

原因＼症状	風量不足	騒音過大	振動過大	モーター過熱	運転しない	対策
基礎が弱い	○	○	○			基礎補修
据付け不良	○	○	○			据付調整
定格と異なった電圧による運転	○	○	○	○	○	電源確認
回転体と静止部の接触	○	○	○	○	○	点検・調整
異物混入、塵埃付着	○	○	○	○	○	点検・清掃
ダクト工事不良	○	○	○			ダクト改善
回転方向逆	○					モーター結線の入れ替え
誤結線	○	○		○	○	結線変更

■ 相談先がなくお困りの場合は、次の窓口にご相談ください。

ご使用の回線(IP電話やひかり電話など)によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

●使いかた・お手入れなどのご相談は…

パナソニック お客様ご相談センター 365日 受付9時～20時
電話 フリーダイヤル 0120-878-365 ※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

●修理に関するご相談は…

パナソニック 修理ご相談窓口
電話 フリーダイヤル 0120-878-554 ※携帯電話・PHSからもご利用になれます。
• 上記電話番号がご利用いただけない場合は、各地域の「修理ご相談窓口」におかけください。

工事説明

1.取り付けの前に

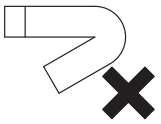
■ご確認ください。

●破損、変形はありませんか。
●ご注文通りの製品ですか。

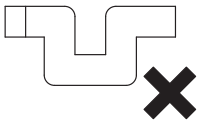
お願い

●施工時、点検時には、手袋やヘルメットなどの保護具を着用してください。
●製品の電源をご確認のうえ、取り付け工事を行なってください。
●吊りボルトおよび基礎ボルトは十分な強度のものをご使用ください。
●吸込側には、ほこり等が吸い込まれぬようフィルター（客先手配）をご使用することをおすすめします。（フィルター圧損による風量低下にはご注意ください。）
●給気口を設けてください。（効果的な換気ができません）
●煙突排気の燃焼器具を使用される部屋で排気する場合は、十分大きな給気口を別に設けてください。（排気ガスが室内に逆流し一酸化炭素中毒を起こすことがあります。）
●屋外への排気ダクトは、先端にパイプフード（客先手配）を取り付け、1/100以上の下り勾配をつけてください。（雨水が機内に入らないよう設置してください。）
●ダクト施工時は、製品本体に力が加わらないよう、ダクトを天井から吊るしてください。
●次のようなダクト工事はしないでください。
（1）（2）（3）はダクト抵抗が大きくなり、（4）は気流の乱れ·衝突が発生します。吸込口·吐出口が閉塞に近い状態での運転となりうるので、振動や騒音値が大きくなるばかりではなく、風量の低下やモーターに悪影響を与えます。

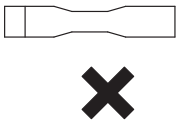
（1）極端な曲げ



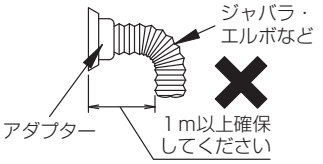
（2）多数回の曲げ



（3）接続ダクト径を小さくする



（4）アダプターのすぐそばでの曲げ

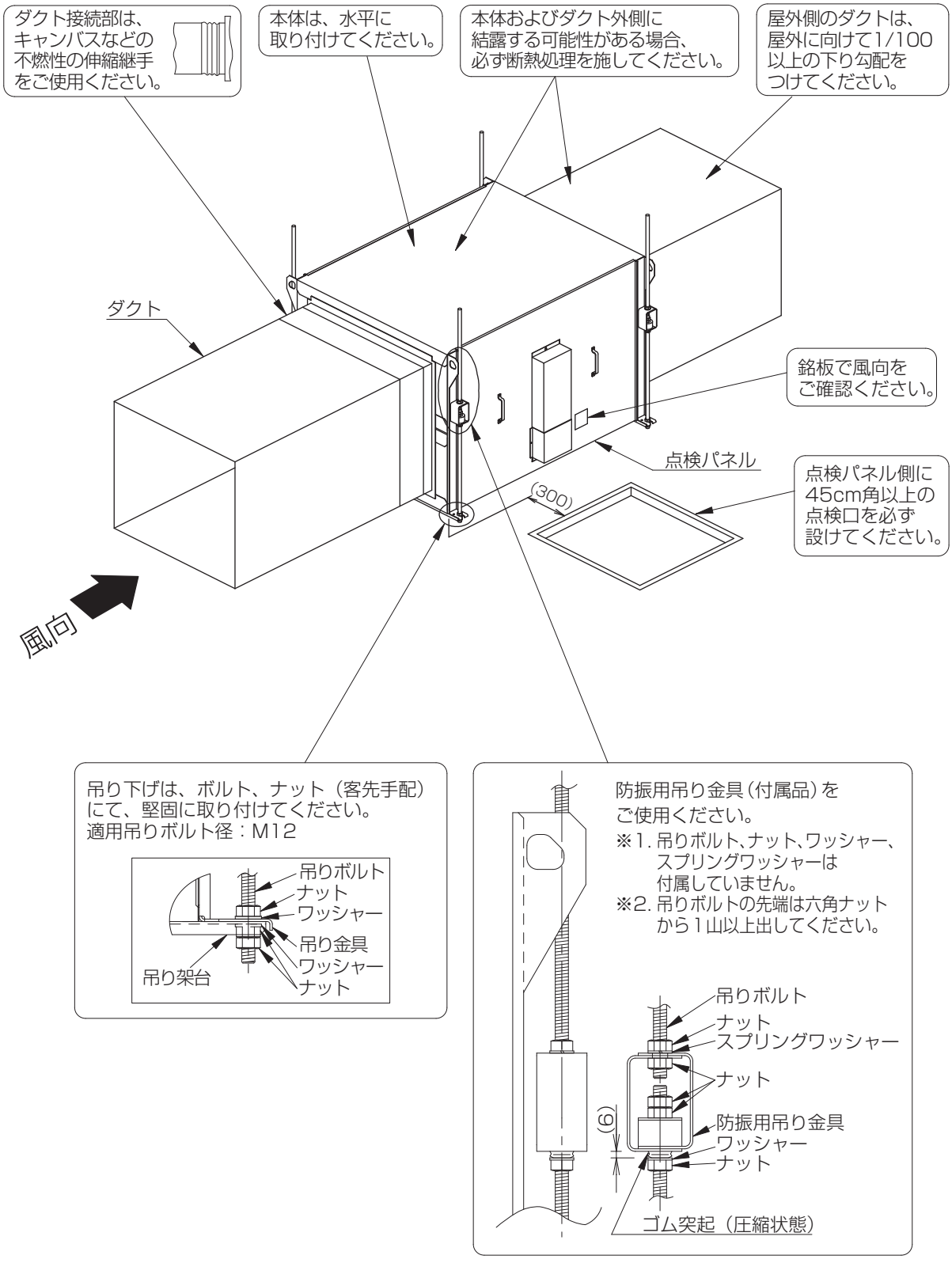


●本体アダプター（接続口）とダクトを固定した後は、風漏れのないよう、アルミテープ等（客先手配）でテーピングしてください。
●運転停止時、羽根車が高速で逆回転しないよう、外風他による過度な風が接続ダクト内を流れないようにしてください。羽根車の破損等の故障の原因となります。
（必要に応じて電動ダンパー等（客先手配）を設けてください。）
●屋外（雨のかかる場所）や水のかかる場所、常時蒸気などが発生する場所、腐食ガスの発生するおそれのある場所、化学薬品を使用する場所では使用しないでください。
●ダクト接続や電源接続の際、本体に穴をあけますと本体内部の電装部を破損する恐れがありますのでお避けください。
●熱気、油煙、蒸気、湿気などの発生する場所やプール、温泉には使用できません。
（使用環境条件（周囲・取扱空気共）：−10℃〜+40℃ 相対湿度85%以下）
●冬場冷気を室内に給気する場合など、接続ダクトおよび製品本体の外部に結露を生じる恐れがある時は、必ず断熱処理を施してください。

⚠注意	**施工時・点検時には、手袋やヘルメットなどの保護具を着用してください。**

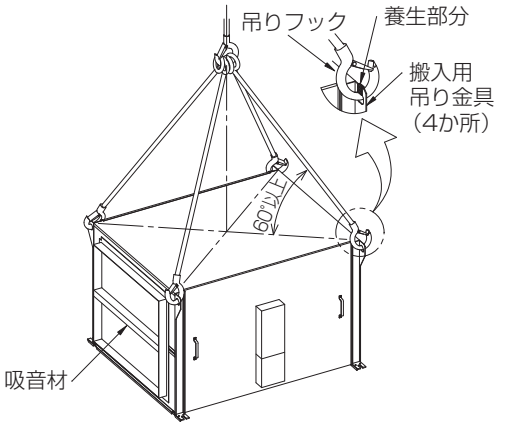
工事説明（続き）

2.取り付け方法



■ 搬入方法

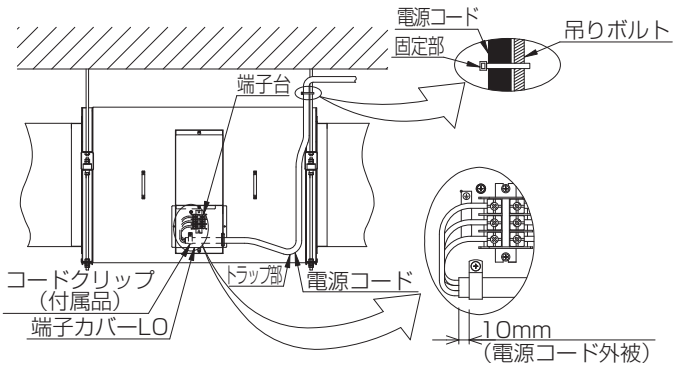
●搬入時等、本品をワイヤーで吊り上げる場合は、
必ず図のように4点で吊り上げてください。
その際、吊りフックと搬入用吊り金具の接触部は、
傷が付かないように養生してください。
また、吸音材や内部部品は変形のおそれがありますので
持たないでください。



3. 電気結線

電気工事店様へ

●配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行なってください。
●D種接地工事を行なってください。（異電圧仕様の機種の接地工事は、各電源電圧に応じた接地工事を行なってください。）
●過電流が流れたとき、モーター焼損防止のため、必ず機器1台毎に定格に合った過負荷保護装置（モーターブレーカーなどの保護機器）をお取り付けください。（モーターブレーカー等の選定にあたっては、15ページの「仕様」に記載の最大電流の1.2～1.5倍を目安にしてください。）
●漏電ブレーカーを必ず設置してください。
●端子カバーLOを開けて、電源コードを端子カバーLO内の端子台に結線してください。
その際、電源コードは端子台に張力の加わらないように、端子カバーLO内に取り付いているコードクリップにて固定したのち、吊りボルト等に固定してください。
●電源コードを伝わって、端子台に水が浸入するおそれがあるため、電源コードにトラップを設けるなどの処理をしてください。（右図参照）



●「結線要領図」（14ページ）の破線部を結線願います。
●本製品のモーター内部にはモーター保護用の温度ヒューズが装着されています。定格と異なった電圧による運転、誤結線での運転等の異常使用でモーター巻線の温度が上昇しつづけた場合に温度ヒューズが作動し、ファンを停止させます。一旦温度ヒューズが作動すると、モーターは復帰しません（回りません）。異常の原因を調査し、正常の使用状態にてモーターの交換をしてください。
●ダクト接続する前に必ず回転方向を確認してください。（ファンケーシング側面に回転方向ラベルを貼っております。）電源接続を間違えますと逆回転します。回転方向が逆の場合は3本の電源配線のうち2本を入れ換えてください。
●「入」·「切」運転する場合は、送風機用スイッチ（送風機用制御部材）が必要です。結線および使用方法は送風機用スイッチに付属の取扱説明書を参照してください。
なお、送風機用スイッチのみでは制御できません。必ず電磁接触器と組み合わせて結線してください。
●インバータ運転を行なう場合は、異常な振動、共振、騒音等が発生しないよう、現場施工状態に応じてインバータ側の設定をお願いします。（各インバータの設定については、インバータの取扱説明書をご参照ください。）
●インバータで制御する際に、各商品ごとの定格周波数を上まわる設定では運転しないでください。
●異電圧仕様（380V以上）の機種でインバータを使用される場合は、サージ抑制フィルターを設置してください。

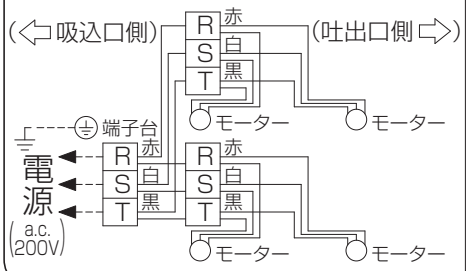
⚠注意	**モーター破損の恐れあり** 定格と異なった電圧による運転、結線図と違った配線による運転、三相と単相をまちがえた運転などをしますと、モーター焼損事故につながりますので、結線は十分ご確認の上行なってください。

工事説明（続き）

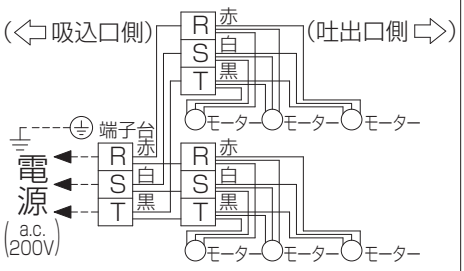
結線要領図（破線 ----- は客先配線）

送風機用スイッチを使用しない場合

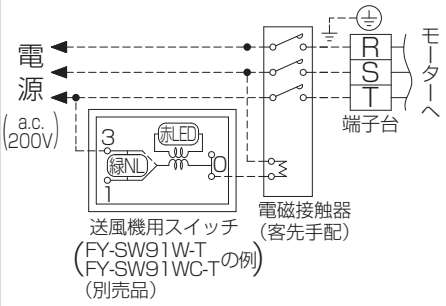
●4モーター機種の場合
（FY-28SCM3-H、FY-28SCZ3-H）



●6モーター機種の場合
（FY-28SCY3-H）



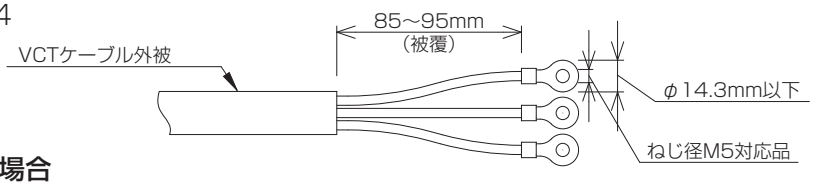
送風機用スイッチを使用する場合



ねじ止め式端子に対する電源コード処理

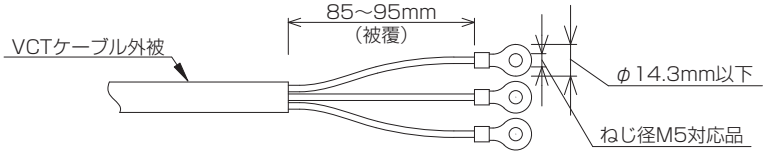
●標準電圧仕様の機種の場合

電源コード（VCT8.0mm²）は先端に下図の丸型圧着端子を取り付けてご使用ください。（端子かしめ作業時は端子専用工具を使用のこと。）
端子台ねじは締め付けトルク2.4N·mで確実に締め付けてください。（締め付け不良は発熱による火災の原因になります。）
本体アースねじ径：M4



●異電圧仕様の機種の場合

電源コード（VCT3.5mm²）は先端に下図の丸形圧着端子を取り付けてご使用ください。（端子かしめ作業時は端子専用工具を使用のこと。）
端子台ねじは締め付けトルク2.4N·mで確実に締め付けてください。（締め付け不良は発熱による火災の原因になります。）
本体アースねじ径：M4



4.推奨別売品について

適用機種品番	送風機用制御部材			
	送風機用スイッチ			
	金属製プレート	樹脂製プレート	ワイド21	
			樹脂製プレート	樹脂製プレート（カバー付）
FY-28SCM3-H	FY-SW90-T	FY-SW91-T	FY-SW91W-T	FY-SW91WC-T
FY-28SCZ3-H				
FY-28SCY3-H				

●三相用機種の送風機用スイッチを使用する場合は、別途電磁接触器が必要になります。
●各種部材は他にも色々取り揃えています。カタログをご参照ください。
●予告なく部材品番を変更することがありますので、ご利用の際は別途品番をご確認ください。

仕様

1.特性表

品番	羽根サイズ × 羽根数		電源（相·V）	極数	公称出力（W）	代表静圧（Pa）		左記静圧時特性										最大風量（m^3/h）		最大電流（A）		起動電流（A）		質量（kg）
								風量（m^3/h）		消費電力（W）		騒音（dB）												
												側面		吸込側		吐出側								
	（cm）	（番手）				50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	
FY-28SCM3-H	25×4	#1 3/4×4	三相200V	4	6600	230	470	11500	11500	3900	5000	50.0	53.0	64.5	65.5	75.5	77.0	13000	15500	18.5	24.0	96	112	157
FY-28SCZ3-H	25×4	#1 3/4×4	三相200V	4	7400	210	450	13500	13500	4520	6050	50.5	53.5	65.5	66.5	77.0	78.5	14800	17100	20.0	27.0	96	112	159
FY-28SCY3-H	25×6	#1 3/4×6	三相200V	4	11000	250	480	17000	17000	6080	7690	53.0	55.5	67.0	68.0	74.0	76.0	19800	23500	28.5	37.0	146	154	257

注記）
1. 風量はチャンバー法により測定した値です。
2. 騒音は代表静圧時の値で測定条件は以下に示す通りです。（本体の吸込吐出両側にダクト接続時）
   側面――本体側面1.5mでの騒音値（吸込側・吐出側騒音含まず）
   吸込側――吸込側1.5mでの騒音値（側面・吐出側騒音含まず）
   （ダクト端PWLに対し1.5m距離相当の算出値）
   吐出側――吐出側斜め45° 1.5mでの騒音値（側面・吸込側騒音含まず）
   なお、1mでの騒音値は上記数値に2dBを加えてください。
3. 最大電流は最大風量時の測定値です。
4. 異電圧仕様は、電流等の特性が異なりますので、銘板をご覧ください。
5. 上記仕様は、常温（20℃）での値です。

2.使用環境条件

●周囲・取扱空気共　−10℃～+40℃・相対湿度85%以下でご使用ください。
●屋外（雨のかかる場所）や水のかかる場所、常時蒸気などが発生する場所、腐食ガスの発生するおそれのある場所、化学薬品を使用する場所では使用しないでください。
●熱気、油煙、蒸気、湿気などの発生する場所やプール、温泉には使用できません。

●使いかた・お手入れなどのご相談は…

パナソニック 総合お客様サポートサイト

http://panasonic.co.jp/cs/

パナソニック お客様ご相談センター　365日 受付9時～20時

電話 フリーダイヤル **0120-878-365**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

音声ガイダンスを短くするには、案内が聞こえたら電話機ボタンの
「87」と「990#」を押してください。
（番号を押しても案内が続く場合は、「*」ボタンを押してから操作してください。

■上記番号がご利用いただけない場合
06-6907-1187

■FAX フリーダイヤル
0120-878-236

Help desk for foreign residents in Japan **Tokyo** (03) 3256 - 5444 **Osaka** (06) 6645 - 8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※上記の内容は、予告なく変更する場合があります。ご了承ください。

●修理に関するご相談は…

パナソニック 修理サービスサイト

http://club.panasonic.jp/repair/

インターネットでのご依頼も可能です。

パナソニック 修理ご相談窓口

電話 フリーダイヤル **0120-878-554**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

- 上記電話番号がご利用いただけない場合は、各地域の「修理ご相談窓口」におかけください。

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。
本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

愛情点検　長年ご使用の消音形キャビネットファン〈大風量タイプ〉の点検を!

こんな症状はありませんか	・スイッチを入れても運転しない ・スイッチの動作が不確実 ・運転中にこげ臭いにおいがしたり、異常な音や振動がする。 ・その他の異常や故障がある。	▶	ご使用中止	このような症状の時は使用を中止し、故障や事故の防止のため必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ おぼえのため記入されると便利です	お買い上げ日	年　月　日	品　番	
	販売店名	☎（　）　－	お客様ご相談窓口	☎（　）　－

パナソニック株式会社
パナソニック エコシステムズ株式会社
〒486-8522　愛知県春日井市鷹来町字下仲田4017番

© Panasonic Ecology Systems Co.,Ltd. 2012

28SCM30750-H
P0412-0